

九之助橋

くのすけばし ●Kunosuke-bashi
(東横堀川)

九之助橋は、慶安から万治年間の絵図には既に描かれていることから、江戸時代初期には架けられていたと推測される。また、この橋の西側を九之助町とっていたことから、橋名や町名の由来は、何らかの関係者の人名ではないかと考えられているが不明である。

橋の西側に住友家の銅製錬所があり、寛永13(1636)年頃には銅の精錬が始まった。これに伴いこの付近は、鋳物屋や鍛冶屋などが多くなり工業の町になったようだ。

現在の橋は、第一次都市化計画事業に基づいて、大正15(1926)年に鋼製のアーチ橋に架け換えられ、平成4(1992)年に改修が行われた。



東横堀川に架かる橋は、アーチ型が採用されているものが多い理由は、当時の川は今の幹線道路の役目をしていたため、船の通行が多かったこともあるが、川の美観に対しても配慮されていたと思われる。

